

「不祥事の根絶をめざして」

取組の内容

南相馬市立上真野小学校

本校では、教職員一人一人が教育公務員としての自覚と責任をもって職務に当たるため、年10回のサービス倫理委員会を実施している。また、サービス倫理委員会に毎年1回は外部人材にも参加していただいている。本校では、保護者からの集金が多いことが課題になっていることから、教職員が一丸となって公金の適正処理を含めた不祥事根絶を目指すための工夫として、以下の取組を行っている。

1 公金（保護者集金）処理の削減と工夫

業者からの学用品等の販売について、業務の削減と不祥事の未然防止のため、販売斡旋のチラシ配付を最小限にしている。配付の可否については、担任、教務主任、管理職の三者で確認している。集金の際は、集金開始から支払までの期間を3日以内とし、必ず管理職が業者への入金まで確認している。

公金（保護者集金）処理の流れについて

本校では業者からの学用品等の販売について、販売斡旋のチラシの配付を業務の削減と不祥事の未然防止のためにも最小限にしています。しかし、必要な集金もありますので、以下のような対応をお願いします。（教育事務担当訪問でもご指導がありました）

1. 学年ごより等での集金の周知
 - ・できるだけ短期間での集金が望ましい。
2. 集金
 - ① 学校名簿に添付してきたチェック（集金期間中）
 - ② 校長名簿に入れた（報酬）
 - ③ 業者への支払い（授業中の支払いであれば、事務・教員に頼む）
3. 名簿（記入例）

名前	種別	14-112				
上野野 敏						
伊藤 敏雄						
藤原 武郎						
高木 守						
渡野川 敏子						

2 サービス倫理委員会に外部からの参加

本校では、年に一度、学校評議員（地区代表3名、保護者代表1名）にサービス倫理委員会が行う事例研修に参加してもらい、外部人材ならではの率直な感想や厳しい意見をいただいている。



3 サービス倫理委員会で学んだこと、感じたことをフィードバック

サービス倫理委員会では、チェックシートにチェックを入れるだけでなく、今後の不祥事防止につながる感想を書くことで自分事化を図っている。記入後は、管理職が一人一人の記入内容を一覧にまとめ、回覧することで共有化も図っている。

第7回サービス倫理委員会（飲酒運転） R7.11.10

～感謝のご記入ありがとうございました～

- 飲酒運転は当然であるが、酒気帯び運転にならないような飲酒の仕方に気をつけていきたい。自分だけではなく、家族の人生も大変なことになるということを忘れないようにしたい。
- 私自身は飲酒はしませんが、同僚の様子は気にできるので、声をかけ合いながら楽しく過ごしたい。
- 改めて気を引き締め、飲酒運転をしないと誓います。
- 自分の身勝手な飲酒運転が家族や親戚に与える影響は計り知れないことを肝に銘ずるべきである。

成果と課題

- 教職員全体で、学校を通じた学用品販売の必要性について再考するよい機会となり、不祥事防止だけでなく集金業務の削減につなげることができた。
- 研究協議でいただいた学校評議員からの忌憚のない意見や感想を通して、教育公務員としての自覚や使命感を再認識してもらったよい機会となった。
- 自分以外の教職員の考えを共有することで、「チーム学校」として絶対に不祥事を起こさないという自覚の強化につなげることができた。
- 研修をマンネリ化させないことが課題である。これからも不祥事を自分事として捉えられるよう、管理職とサービス倫理委員とで研修内容や持ち方を工夫していきたい。